

シリーズ

郷土の偉人

27



森鷗外

(1862~1922)

森鷗外は、本名を森林太郎と言
い、軍医を務めるかたわら、小説
家や翻訳家など多くの分野で活
くした偉人です。

江戸末期の1862(文久2)
年に津和野藩に仕える医者の長男
として生まれ、幼少から学問に
励みました。東京医学校(現在
の東京大学医学部)を卒業後は
陸軍の軍医となり、1884(明
治17)年から4年間、ドイツに留
学しました。そこで鷗外は、ドイ
ツの進歩した医学とともに文学や



ドイツ留学時代の森鷗外
(国立国会図書館提供)

明治・大正時代の文豪

芸術も学びました。

帰国後は、軍医として働きなが
ら創作活動を始め、初作品として、

1890(明治23)年、ドイツ留学
の体験をもとに書いた小説「舞姫」
を発表しました。

その後も創作活動に打ち込み、「山
椒大夫」や「高瀬舟」など、数多く
の名作を執筆。近代日本文学に大き
な影響を与えました。陸軍を退いた
鷗外は、1922(大正11)年、61
歳の生涯を閉じました。

鷗外は亡くなる直前、友人に、「私
は石見(島根県西部)出身の森林太
郎として死ぬのだから、墓には森林
太郎墓とだけ書いてほしい」という
遺言を残します。これは、鷗外自身
があらゆる名誉から離れ、一人の
人間として生きたかったという思いが
込められていると言われています。



森林太郎の墓
(津和野町・永明寺)